

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第5期第4回相模原市緑区区民会議				
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話042-775-8802(直通)				
開催日時		平成31年1月30日(水) 10時00分～12時05分				
開催場所		緑区合同庁舎 集団指導室				
出席者	委員	18人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	9人(緑区長、緑区副区長、緑区役所区政策課長、他6人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	5人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 市総合計画基本構想の答申について(情報提供) (2) 緑区のめざす姿(将来像)に向けた課題と方向性の検討について(意見交換) 3 その他 4 閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は会長の発言 は委員の発言 は事務局の発言)

### 1 開会

牧瀬会長の司会進行により議事が進められた。

会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議の公開、配布資料の確認を行った。また、傍聴希望者の報告を行い、傍聴希望者がいたため、傍聴を許可することとした。

### 2 議題

#### (1) 市総合計画基本構想の答申について

事務局から資料のとおり説明があった。

前回いただいた委員からの質問の中で総合計画の構成が変わったことについて質問があったが、市総合計画審議会内においても関連した質問があった。その中では、「現総合計画を基本としつつ、昨今の少子化対策の主な課題として、子ども・子育てを非常に重要視していることを踏まえ、1番目を『子ども・教育』とした。2番目以降は、現総合計画の並び順を基本に並べた。」との回答があったので、参考にお伝えする。

#### (2) 緑区のめざす姿(将来像)に向けた課題と方向性の検討について

事務局から資料について説明を行った。その後、3班に分かれて、「自然・環境(農業・公園などを含む)」、「産業・観光・商店街」、「安全・安心(防犯・防災を含む)」、「健康・医療・福祉」の分野について検討を行った。

緑区区ビジョンの評価について、委員から御質問があったところであるが、区ビジョンの推進にあたり、協働の視点から推進方策を検討し、区民としての取組等を提案することなどによって、区ビジョンの実現を図ることを基本としている。そのため、今まで区ビジョン策定後から実施してきたことについては、各地区・団体の活動の事例紹介、情報交換、進捗状況の把握を行うとともに、その充実策や対応策を協議し、推進方策の提案につなげてきた。

区ビジョン策定後の意見・推進方策は、各期で作製した区民会議報告書にまとめられている。区ビジョン策定後の2期、3期(4期は既に配布済み)をお配りする。なお、4期では課題抽出を行うため、改めて総合計画審議会の報告書の各

事業の評価を見ながら、協働の取り組みの目線として、重点プロジェクトの内容を審議し、課題を出しているところである。

今回は4分野について、目指す姿を検討するということによろしいか。

そのとおりです。目指す姿が決まっている場合は、取り組み方針についても検討していただければと思う。

資料3の「区ビジョンの推進にあたって」を見ると、「協働」がテーマになっているので、協働もテーマにしながら4分野を意見交換してもらえればと思う。様々な解釈があるかと思うが、自分が考えるには協働とは「協」の字の中に3つの力があるとおり、行政と各種団体と住民が力を合わせて働いていくものと考えているので、そういったことについても考えていただければと思う。

審議内容は長期、中期、短期に分けて審議すべきではないか。その中で長期のプランニングは情報が不足しており、難しい。また、各地域には地域特性があるため、それを考慮すべきではないか。

審議内容につきましては、区別基本計画では、区目指す姿として8年後のまちづくりを目指すものであるため、参考とされたい。

現場としては、様々な課題があると思うが、区目指す姿を考えた上で、地区ごとの考え方などをまとめていくという認識でよろしいか。

そのとおりです。

現状の対策について考えるのが精一杯で、8年後を考えるのは難しい。

まちづくりの方向性は、皆で同じ山の頂上を目指して登山するため、どの山の頂上を目指すのか決めるイメージを持っていただければと思う。そうすれば、目指す頂上は同じだが、方法は各地域での特性を考えながら決めていくものとして、認識していただければと思う。

今回の分野の他には何があるのか。審議方法は班ごとに4分野を話し合うのか、それとも1分野のみを話し合うのか教えていただきたい。

11月の区民会議にてご説明させていただいた資料の中で記載のとおり、全部で11の分野を区民会議で話し合うことになる。前は3分野、今回は4分野、次回は3分野を話し合う。話し合いの方法は1班で4分野を話し合うことを予定している。

以下の3班に分かれて意見交換が行われた。

1班 中山委員、落合委員、奈良委員、佐藤委員、高橋委員、高堂委員

2班 山下委員、長谷川委員、原委員、関司委員、齊藤委員

3班 高松委員、森川委員、今井委員、池田委員、道本委員

最後に各班からの発表があった。

#### 【1班】

自然環境については、里山と都市を併せ持つ政令市として、独自の魅力が使われておらず、勿体無いと感じるので、子どもや高齢者が集える場として公園の充実して欲しいとの意見が出た。里山を活かす視点としては、ジビエや耕作放棄地を同活用するか検討すべきではないかとの意見が出た。

産業については、地価が安い相模原でもシェアオフィスが出来るのではないかと意見があった。

観光については、現在動き出している津久井地域里山体験ツアーを目玉としていきたいという意見があった。また、リニアを活かした観光資源やオリンピックにちなんだ名物を作れないかとの意見もあったほか、こうした観光資源についても、IT産業と連携して行なうことが出来るのではないかと意見があった。

商店街については、空き店舗については現在、長期利用でないと借りられないとの話があったので、イベントなどにも気軽に利用しやすいよう、短期利用が出来るようになったらよいのではないかと意見があった。

安全安心については、基本的な考え方として、「地域コミュニケーションが活発なまちづくり」を目指すということが挙げられた。具体的な内容として、防犯カメラや監視カメラを全市的に計画的に整備すべきという意見が出た。

災害については、地球規模による気候変動が連動していると考えられるので、分析・現状把握や対策をたてる。その上で、緊急連絡専用のアプリケーションを導入したらどうかとの意見が出た。また、GPSを使用して子どもの位置情報を送ることを出来る仕組みはどうかとの意見があった。

健康・医療・福祉については、「未病対策が万全なまち」を目指すという意見があった。方法のひとつとして、健康増進を目的とした様々な媒体による情報発信が必要であることが挙げられた。また、企業とコラボレーションし、健康促進のメニューを作っていく。更に100歳体操の普及や高齢者が働ける場所づくりを行うことで、高齢者を活かすまちづくりを進め、未病対策が出来るのではないかと考えた。

また、在宅医療の促進や、例えば、自然を活かした環境で古民家を使用して寄り添いながら生活できる場所や、介護・医療も入ってくる事が出来る医療を具体化していったらどうかとの意見が出た。

#### 【2班】

自然環境については、都心からのいい距離感をどう活かすかという意見が出

た。鳥獣対策について、窓口がたくさんあって大変なのでワンストップ化してほしいとの話も出た。また、学生と地域の交流などを通して、自然を取り入れたライフスタイルの豊かさについて、さらに情報発信していき、人口減少地域への移住・定住につなげていったらどうかという意見が出た。

産業・観光・商店街については観光協会がさらにまとめればさらに発進力が高まるのではないかという意見が出た。

健康・医療・福祉については、移動の問題を考えると、医療や福祉についても、移動販売カーのように地域を移動してサービスを提供できる仕組みづくりについても検討したらどうかという意見があった。また、現に実施しているところはさらに連携できるよう検討したらどうかという意見もあった。

安全・安心としては、子ども達や災害時要支援者について、個人情報のため、地域の人が把握できないので、人の繋がりが出来にくくなるという課題もあるのではという意見もあった。そういった意味ではやはり自治会が地域の基礎を作り、民生委員とともに連携して動くなど、今あるものを上手く活用して洗練していくのがいいのではないかという意見も出た。それを実現するためには、行政に少人数の活動でも団体を立ち上げられる助成金を出してもらえる制度やあるいは今ある制度の中で自治会が充実できる仕組みづくりをしたらどうかという話が出た。また、地域の祭りには子どもがいないと成り立たないので、公園や空き地などの開催場所が少なくなっているのも、そういったところの提供の後押しを行政にもやってもらうなど地域の基礎づくりについて後押しをして頂きたいなどの意見も出た。

### 【3班】

自然環境について、リニアの開発が進むと農地の減反も行われると思うが、個人農家のあり方について、後継者不足なども危惧されているので、花や野菜などを「さがみはらブランド」として確立し、人手不足を解消し、天候にも左右されない、工場内で農業を行う工業農業などを誘致することを進めてはどうかという意見が出た。人手不足を補うためには更にオートメーション化をしていくべきではないかという意見も出た。

相模原の自然を活かして、現在、自然に対するニーズがあると思うので、自然を取り入れた生活や施設、保養所を開発してはどうかという意見も出た。

通信整備することにより、自然環境の中で生活をしながらテレワークなどライフスタイルに合わせた仕事を行えることが出来るのではないかという意見があった。不便を楽しむという充実した環境を作っていくことが出来るのではないかという意見が出た。

健康・医療・福祉についても、通信環境を整えることにより、医療や福祉につ

いても、どの地域でも補えるのではないかとの意見が出た。高齢者をはじめとした人々へタブレット端末の支給などを行うことで、不安なことを相談できる環境が作ることが出来るのではないかとの意見が出た。

訪問医療についても、コストが高くなってしまおうと思うが考えていただきたいとの意見が出た。

高齢者になってきて、コミュニティの必要性を大きく感じるとの意見があった。人が外出することによって、生きがいや健康面の相談が出来るなどいい面があると考える。なかなか年をとってから新しいコミュニティには入り辛いと感じるので、30、40代の働いている世代から地域コミュニティへの参加を呼びかけてみてはどうか、との意見があった。そうすることで、退職した後でも、コミュニティへ参加する意識が高くなるのではないか。特に男性の方がコミュニティへの参加が低いと感じるので、若いうちから参加することで、高齢者になってから家を出なくなってしまう事態を防げるのではないかとの意見があった。コミュニティづくりには、現在、各地で100歳体操を行っているので、更に市として普及させるといいのではという意見があった。

民生委員が不足しているので、参加しやすい環境づくりが必要であるとの意見があった。

色々な意見が出てきたので、これからブラッシュアップしていくと考えている。また、こういった観点の中にごみ出しや交通マナーなど暮らしていく中での生活のマナーについても、示すことで、意識の向上に繋がって欲しいと感じた。

今回の意見は事務局でまとめていただきたい。

### 3 その他

図司委員及び奈良委員からシンポジウムに関する情報提供があった。

次回会議は、平成30年2月頃の開催を予定。詳細は事務局でスケジュール調整した後に通知することとなった。

### 4 閉会

参考 各班の意見交換で出た意見（抜粋）

【1班】

・健康・医療・福祉

年齢別で定期健診を行う（1年に 回など）。  
健康促進のための情報発信を行う（新聞、インターネットなど）。  
自助する心構えを持てるようにする。  
未病対策が万全なまち。  
企業とのコラボで健康促進が実現できるまち。  
医療先進・先端研究の誘致。  
医療機関受診のための交通確保が必要である。

スーパーが少ないため、買い物弱者の支援が必要。  
独居老人が集まれる体操教室をつくる。  
高齢者が働ける環境づくり。  
企業とのコラボレーションによるシニアスポーツが多種あるまち。

自然を生かした保養所の設置。  
古民家などを使って介護施設を。  
在宅ケアという考え方の追求。  
在宅医療機関の設置。

・安全・安心

中学生などへの夜回り等の実施。  
となり組制度の復活。  
コミュニケーションが活発なまち（顔が見える近所づきあい）。

地元の学校に進学する小・中学生をふやすまち。  
通学路の確保。

災害対策・・・気候変動と絡んでいることから、より詳細な分析・現状把握、対策をたてる構想を。

大雨時防災対策が必要。  
災害時における要援護者の組織づくり。

相模原災害・緊急連絡占用のアプリの導入。GPSもつけ、子どもの居場所もわかるようにする。

独居老人の防災対策を総合的に検討。

老人会等による子どもとのふれあいで見守る環境づくり。

防犯カメラの設置。

不法投棄対策や防犯にも監視カメラは効果抜群。全市的に設置をした方がよい。事故が起きないしくみのあるまち。

・自然・環境

耕作放棄地の活用。

ジビエ等の活用。

鳥獣被害対策をより効果的に進めるビジョンを。

子ども達と老人の交流の持てる公園づくり。

里山と都市を併せ持つ相模原市の環境をもっとアピールすべき。

水・空気・土地のクリーンさにあふれるまち。

厳しいルールがあっても望む「みどり」があるまち。

里山の保全。間伐草刈、枝打の活用。子どもの教育（遊び）。

自然は豊富なのに子どもの遊び場がない。安全な遊び場を。

里山保全のために茶畑オーナー制度をやりたい。

直売所の転店。外国人を雇い、駅周辺に物流センターをつくる。

農業の担い手の減少。農業従事者の確保。

大沢地区においては、桜まつりを実施している。市の公園を利用しているが、20年を経過しているため、整備が必要。

動植物と触れ合える環境整備。

収益性のある自然との共存。

山登りガイドツアーを若年層から支持を得られるようなものをつくる。



人にやさしい自然、人が享受できる形。  
山や川とのつながりの持てる自然の姿。  
安全な自然抑制、治山など。

## 【2班】

### ・自然・環境

自然豊かなライフスタイルの推進。

都心からいい距離感の自然の活用。冬の寒さを体験できる。

自然だと山梨・長野に負けている。（リニアで）

家庭菜園など、耕作放棄地などの活用をして、それを生きがいや楽しみに持てる生き方に繋げる。

高齢者と大学生で耕作活動。世代間交流。

鳥獣対策が必要。

鳥獣被害の対策部署をワンストップに。

相模湖、小学生4人、スーパーなくなっている、保育園が平成32年に閉まる所がある。

人口増の対策必要。自然豊かな暮らしをしたい。

若葉台団地も空き家増加。

空き家対策、若者入ってもらう

空き家対策（利活用、移住・定住）

津久井地域は人口減少への対策について、具体策が欲しい。

移住・定住に向けて職員を配置していくべき。

### ・観光・産業

自然を活かした広大なイベント。

緑区内の各観光協会を1つにし、発信力を高める。

お客様を大人数受け入れられる宿泊施設。

流入者の意見等を取り入れた地場産品。

相模原の産業を案内できる施設を外部にアピールする。

### ・担い手の現状

昔の人付き合いが分断されている。

団体の仕事が増えてしまって忙しい。担い手がいらない。

城山ではコミュニティたくさんあるが、人材集まらない。

団体の立ち上げを強いられる。

自治会に各担当を置き、自発的な活動。  
少人数で助成金を出し、運営できる支援制度。  
自分の地域は自分で守る意識。  
後継ぎを地域全体から公募。  
分野の有識者、技術者が中心。

各分野の定期便サービスカーをニーズに合わせて運行。

(健康) 定期的な医療カーが地域をまわる。

買い物難民に対して移動...セブンイレブン安心お届け便、病院と連携。防犯面でもよい。

地域医療の充実...在宅ケア。

情報を知る手段が必要。

地域間で支え合う仕組み。

子ども目線の楽しい活動。

A I、自動運転の活用。

子どもは宝。

子育て、地域教育の充実を団体と共に積極的にしている。(城山)

自然で遊ばせる安全性やリスクも考慮すべきである。

公園、空き地が減っている。お祭りの場所がなくなっている。

若い人、子育てを応援していく体制づくり。

子どもがいないと祭りが成り立たない。城山夏まつりでは、土・日に開催することになった。

災害時要援護者への対応について、民生委員との連携が必要。

個人情報で近所の人分からない。

民生委員も自治会へ情報出せない。共有されない。

自治会長が管理できる? 広い地域で繋がらない。

やっぱり自治会が大事。お祭りなどで入ってもらえるように。

### 【3班】

・自然・環境(農業・公園などを含む)

リニア開発...農地減反から農業のやり方に変化が求められる。(後継者不足、担い手の減少)

個人の農家と言うより、ビジネスとしての農家の開拓をすすめても、工場農地の集約...野菜や花などの工場化が最近では身近になっている。天候や人手不足に伴う出荷の不安定を解除できる。

相模原地区の工場化を農業にもいかせられるのでは。その上で、「相模原ブランド」を推進してみる。

#### 相模原市の自然を生かした誘致

現存する保養所やキャンプ場施設を活かして積極的に開拓する。

仕事をする場所と自然の融合を求める人達のニーズに応えるべくコンパクトシティ計画をしてみてもは。

過疎化が進む一方で不便を魅力に感じる人も一定数いる。

働き方が変わってきているので、インフラ整備を進め、田舎暮らしを楽しみたい人々に対応した環境を一つの発展として進めていくのも案として提言。

将来的にスーパーなどの必要がなくなったり、通信整備により自然を楽しむ人にも充実した環境を提供できるのでは。

#### ・健康・医療・福祉

通信環境を整える事により、タブレット端末の提供などを進め、医療や福祉の促進を図りたい。

医療の在り方で、訪問医療の推進。

人手不足により難しいと思われるが、最近はかかりつけ医師が駅周辺に集中しているため区からの補助などを訪問医療に積極的に取り組んで欲しい。

介護医療・・・地域医療の活性化、身近なコミュニティが必要。例えば、「100歳体操」の推進や、「いきいきサロン」など。

相模原発信で高齢者の健康維持につながる推進をしていく。

問題点として、仕事を引退した方がなかなか地域のコミュニティへ参加する事に対してのハードルが高い。なので、働いている若いうちからコミュニティへの参加を呼びかけハードルを低くして、高齢者の補助なども行ってもらうことにより、健康維持を進めていきたい。

外に出て人とのつながりを持つことが大切。孤立化させないことが健康への第一歩。

#### ・その他

民生委員の不足問題がある。一人暮らしの方が多く手が足りない。民生委員について理解し、なってもらいやすい理解の促進が必要。

地域でコミュニティバスなどの状況を整える。

相原高校の移転により駅前の環境が変わり、ビジョンが見えず不安に思っている方も一部いる。

## 相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	高松 幸子	橋本地区まちづくり会議	出席
	中山 光明	大沢地区まちづくり会議	出席
	山下 利麿	城山地区まちづくり会議	出席
	落合 勝司	津久井地区まちづくり会議	出席
	長谷川 兌	相模湖地区まちづくり会議	出席
	森川 哲郎	藤野地区まちづくり会議	出席
関係団体	草野 寛	相模原市自治会連合会	出席
	今井 俊昭	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	出席
	中里 浩章	相模原市立小中学校PTA連絡協議会	欠席
	原 正弘	相模原商工会議所	出席
	奈良 哲弥	津久井地域商工会連絡協議会	出席
	吉野 賢治	一般社団法人 相模原市観光協会	欠席
	飯塚 侑	公益社団法人 相模原青年会議所	欠席
	渡邊 博明	公益社団法人 津久井青年会議所	欠席
	佐藤 鉄郎	相模原市緑区地域既存住宅リフォーム・改築推進協議会	出席
	小稲 香穂	あざおね社中	欠席
学識経験者	牧瀬 稔	関東学院大学	出席
	関司 直也	法政大学	出席
区民	高橋 朋樹	公募委員	出席
	齊藤 賢一	公募委員	出席
	池田 眞弓	公募委員	出席
民間事業者	山本 篤史	株式会社KADOKAWA	欠席
	道本 晃一	相模湖リゾート株式会社	出席
	高堂 智佳	東日本旅客鉄道株式会社	出席
	平本 博久	神奈川つくい農業協同組合	欠席

は会長、 は副会長